

令和3年度（2021年度）建設常任委員会管内視察の概要

- 1 視察日 令和3年（2021年）10月14日（木）
- 2 視察者 建設常任委員会（8名）
河津修司（委員長）、竹崎和虎（副委員長）、井手順雄、
山口 裕、増永慎一郎、本田雄三、前田敬介、南部隼平

3 視察の概要

(1) くまモンポート八代（八代市）

くまモンポート八代は、国際クルーズ船の受入れ拠点として、国、アメリカのクルーズ船会社であるロイヤル・カリビアン社、県の3者による官民連携により整備され、令和2年3月に完成した施設である。

今回の視察では、施設概要の説明を受けた後、職員の案内により世界最大の22万トン級のクルーズ船の寄港に対応できる専用岸壁、大型バス150台が収容できる駐車場、外国人観光客に日本らしさを感じてもらうため整備した日本庭園と竹林の道、全長6mある世界一大きなくまモン像、肥後54万石にちなみ54体のくまモン像で構成されているくまモン合唱隊等の見学を行った。

県の担当者からは、新型コロナウイルス感染症の影響により、クルーズ船の寄港は現在まで実現していないが、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いた時のためにクルーズ船入港の働きかけを常時行っていくとの説明があった。



(2) 西瀬橋仮復旧現場（人吉市）及び相良橋仮復旧現場（球磨村）

人吉市街に架かる西瀬橋及び球磨村渡地区に架かる相良橋は、いずれも平成2年7月豪雨災害で流された橋であるが、国の直轄権限代行により、早急に仮橋による復旧工事が行われた橋である。

西瀬橋は近くにある西瀬小学校の通学路確保のため、相良橋は被害が大

きかった球磨村に災害復旧資材を早急に届ける必要があるなど、いずれも災害復旧を図るうえでは重要な橋であった。

今回の視察では、復旧工事を行った国土交通省九州地方整備局八代復興事務所の職員から橋周辺の被害状況や復旧の工法等について説明を受けた後、仮橋を実際に渡るなどした。

国交省の担当者からは、引堤等河川拡張の計画がはっきりしてから橋を含めた周辺道路の本格復旧に取り組むとの説明があった。



(3) 佐敷川水系災害復旧助成事業現場（芦北町）

芦北町を流れる県管理の二級河川の佐敷川は、令和2年7月3日からの雨の影響で、4日の明け方から河川の水位が急上昇し、佐敷地区を中心に広い範囲で浸水被害が発生し、国の災害復旧助成事業に採択された河川である。

今回の視察では、県の担当者から全体事業費（約42億3千万円）や事業期間（令和2年度～6年度）、事業内容（引堤、河道掘削、それに伴う橋の架け替えと堤防の整備等）の説明を受け、実際にどの辺りまで水位が上昇したか等の水害の痕跡等を見学した。

県の担当者からは、用地買収等の協議が整い次第早急に引き堤などの改良復旧工事に着手したいとの説明があった。

